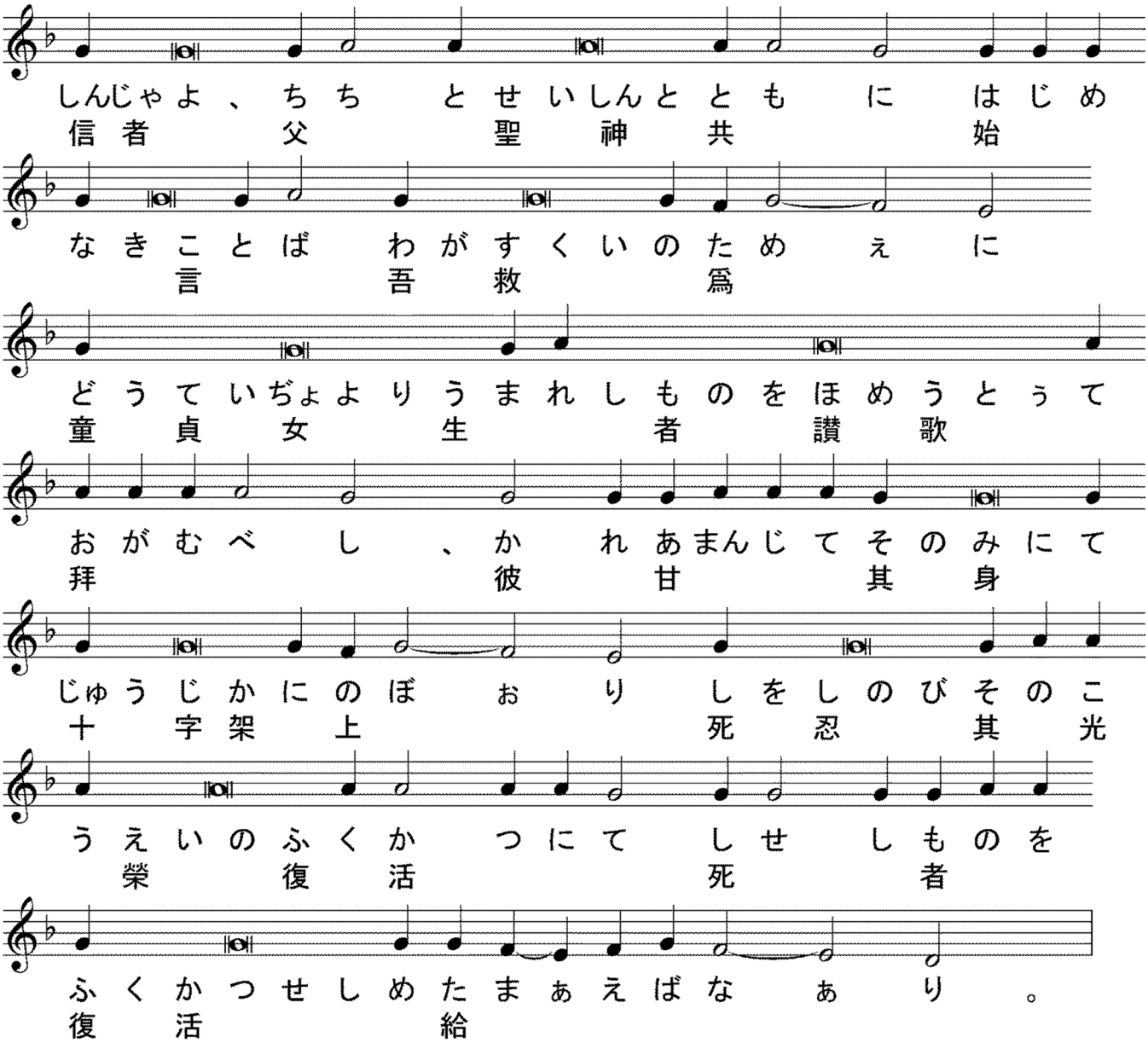
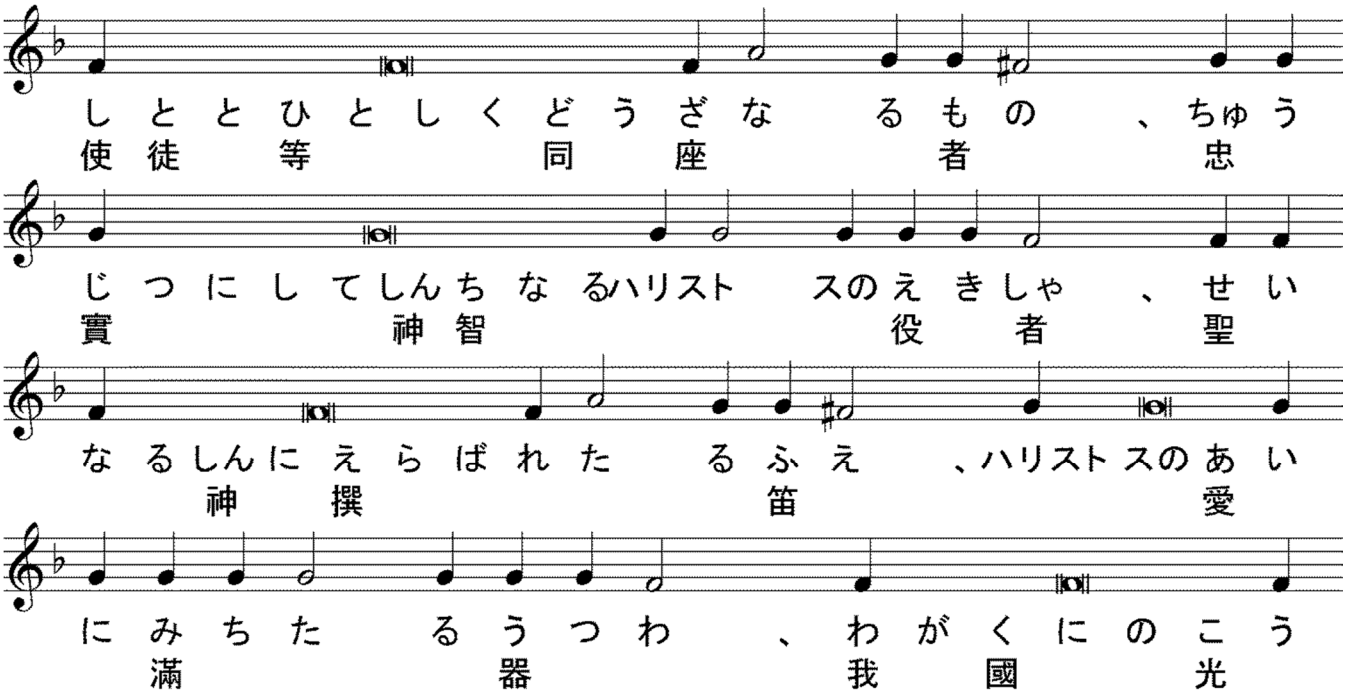
【　復活のトロパリ　第５調　】



【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



しょ　お　しゃ　、あ　し　と　しゅ　きょう　せ　い　ニ　コ　ラ　イ
照　　者　　亜　使　徒　主　教　　聖

よ　、な　んぢ　の　ぼ　く　ぐん　の　た　ぁ　め　、お　よ　び
爾　　羊　　群　　爲　　及

ぜん　せ　か　い　の　た　め　に　、い　の　ち　を　た　も　う　せ　い
全　世　界　　爲　　生　命　賜　　聖

さんしゃ　に　い　の　り　た　ま　え　。
三　者　　祈　　給

【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】

せ　い　せ　いしゃ　あ　し　と　せ　い　ニ　コ　ラ　イ　よ　、わ　が
成　聖　者　亞　使　徒　聖　　我

く　に　なんぢ　を　た　び　び　と　お　よ　び　い　ほ　うじん　と　う　け
國　爾　　旅　人　及　異　邦　人　受

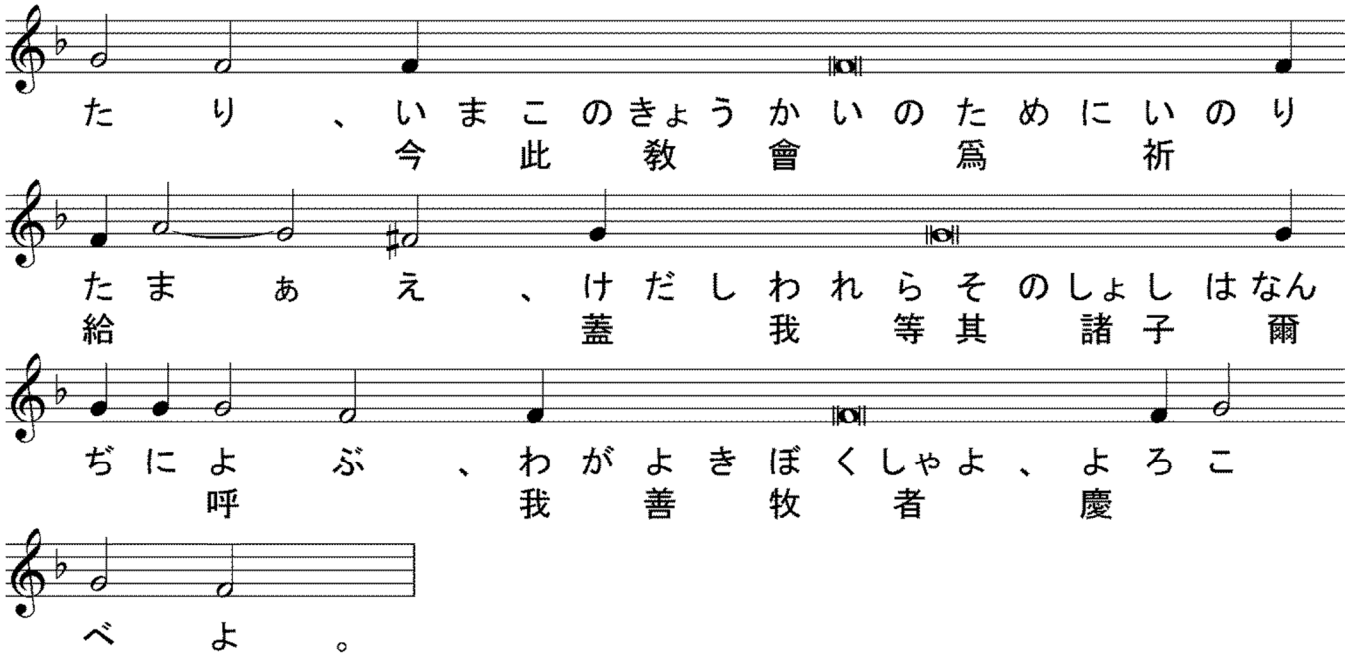
し　に　、なん　ぢ　は　は　じ　め　わ　が　く　に　に　お　い　て　お　の
爾　初　我　國　於　己

れ　を　が　い　ら　いしゃ　と　し　り　た　れ　ど　も　、ハリスト　スの
外　來　者　知

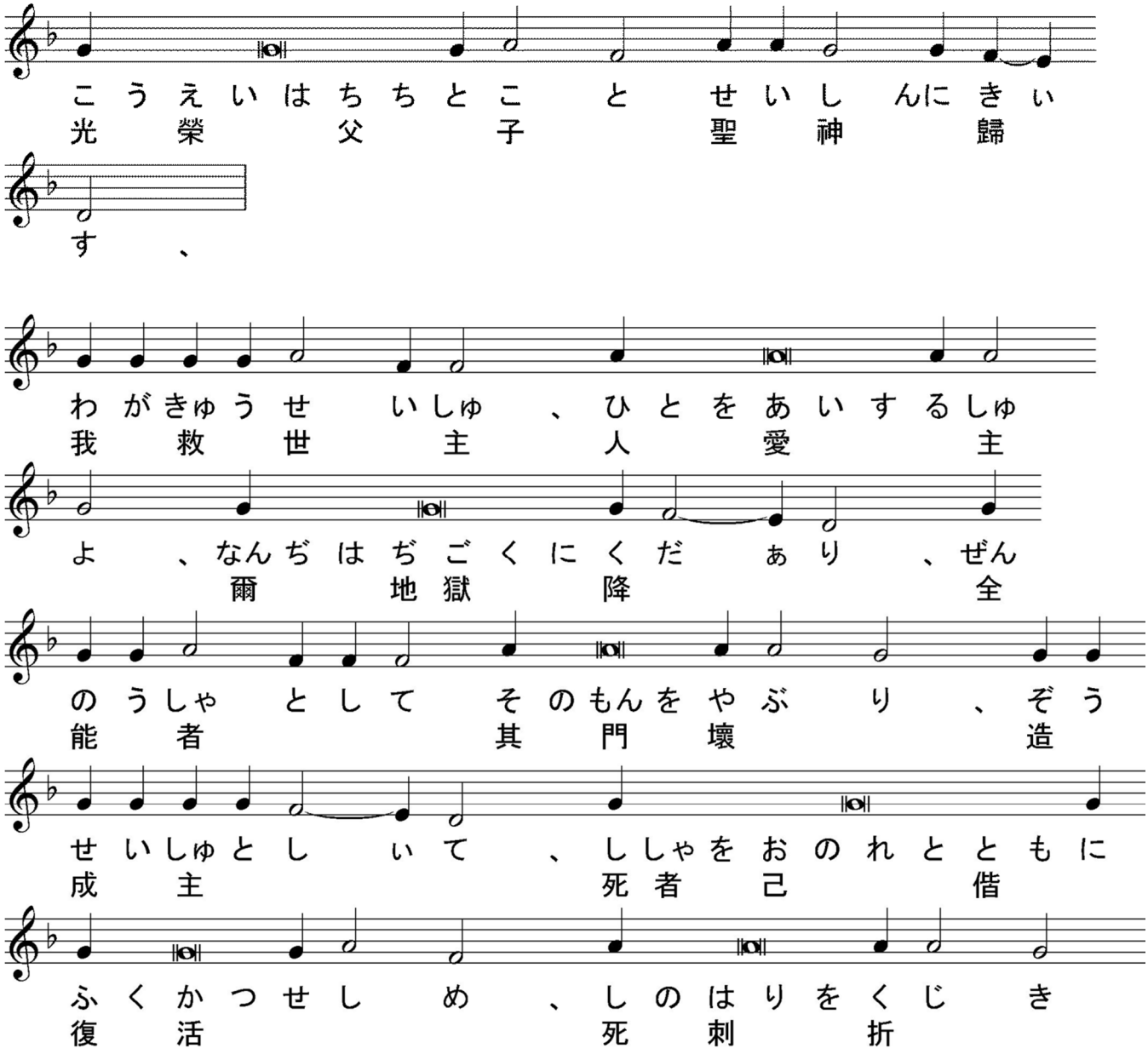
ひ　か　り　と　あ　た　た　か　き　を　な　が　し　、な　んぢ　の　て
光　暖　流　爾　敵

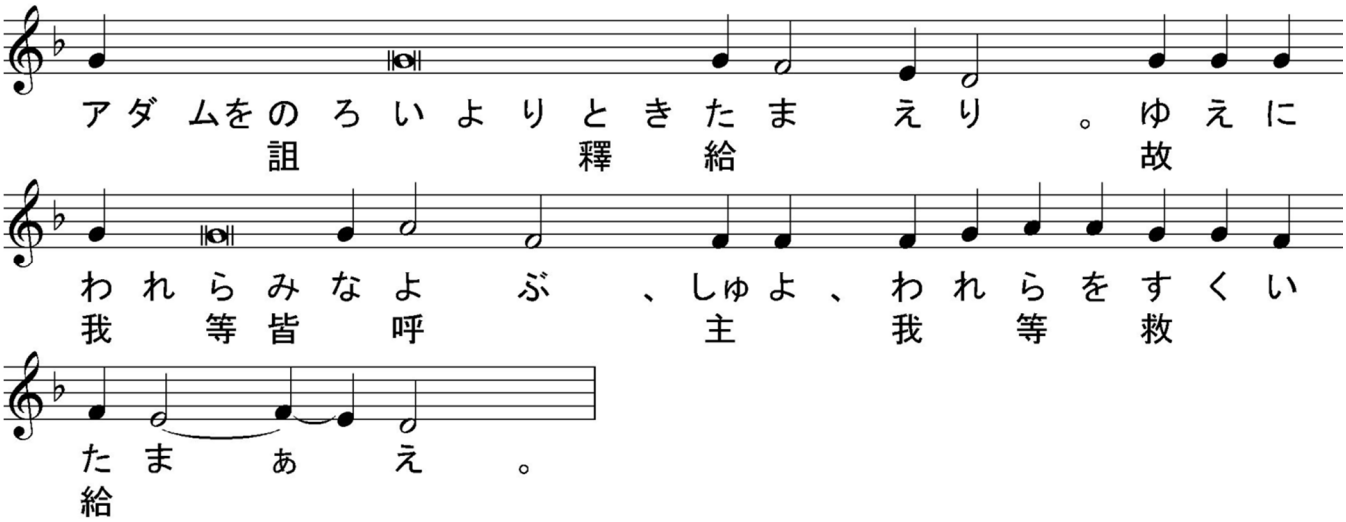
き　を　ぞ　く　しん　の　こ　と　な　ぁ　し　、か　れ　ら　に　か
屬　神　子　爲　彼　等　神

み　の　おん　ちょう　を　あ　た　え　、ハリスト　スの　きょう　か　い　を　た　て
恩　寵　與　教　會　建

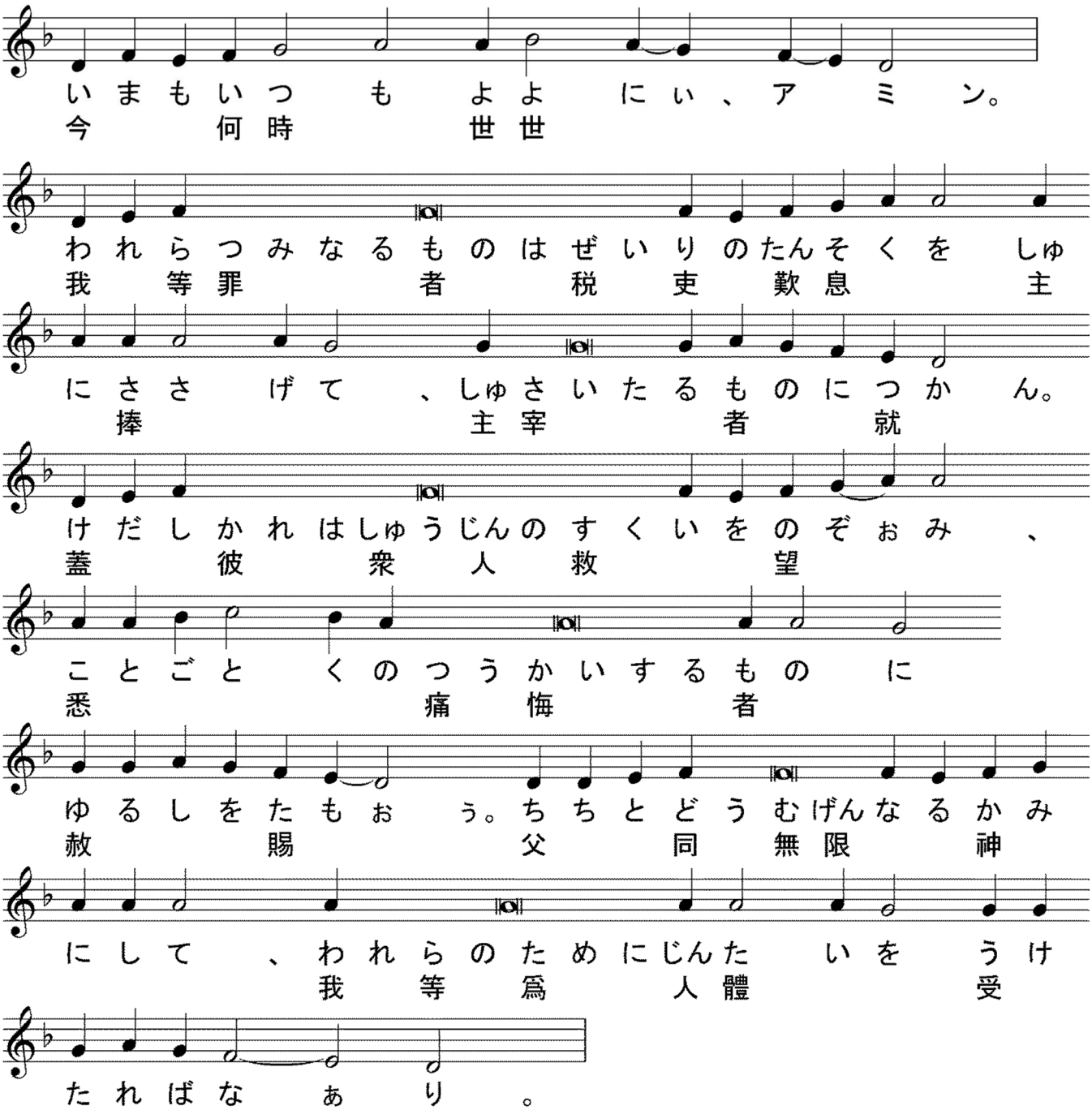

たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまぁえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

【　復活のコンダク　第５調　】


こうえいはちちとこ　と　せいしんにきぃ
光榮父子聖神歸
す、
わがきゅうせいしゅ、ひとをあいするしゅ
我救世主人愛主
よ、なんぢはぢごくにくだぁり、ぜん
爾地獄降全
のうしゃとしてそのもんをやぶり、ぞう
能者其門壞造
せいしゅとしぃて、ししゃをおのれとともに
成主死者己偕
ふくかつせしめ、しのはりをくじき
復活死刺折

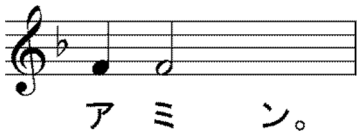


【　税吏とファリセイの主日のコンダク　第３調　】

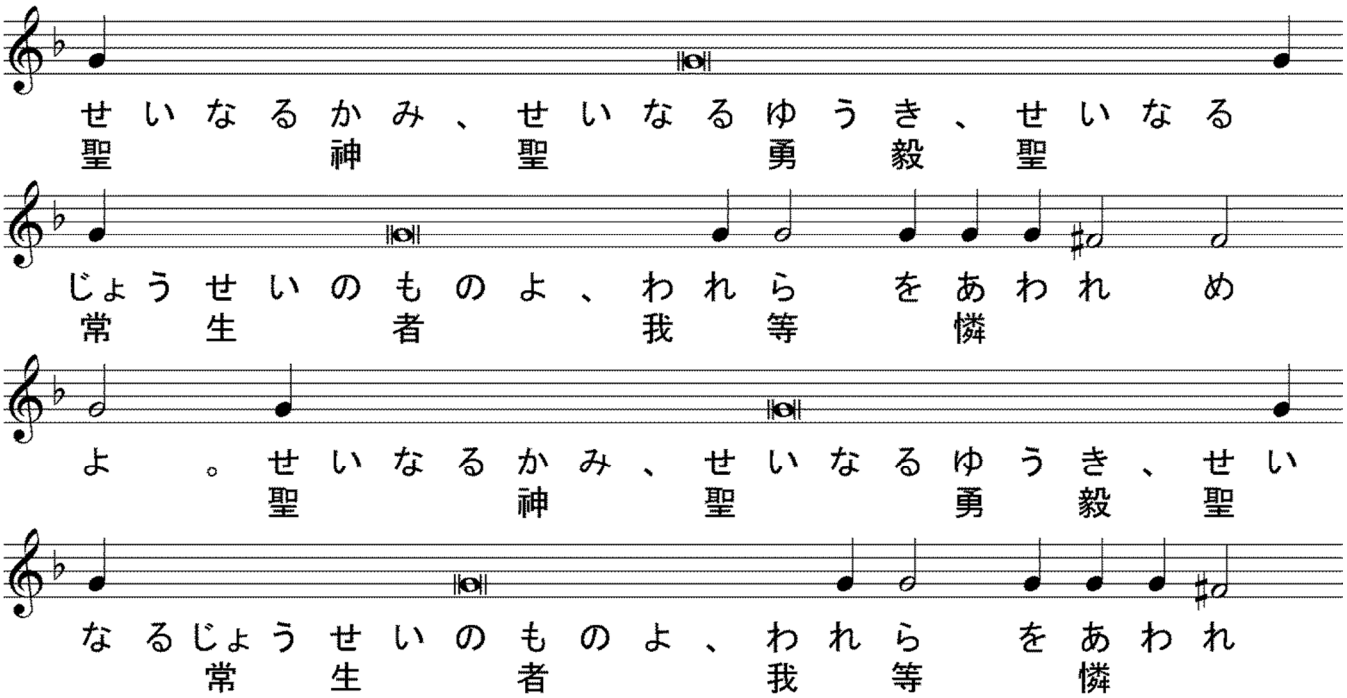


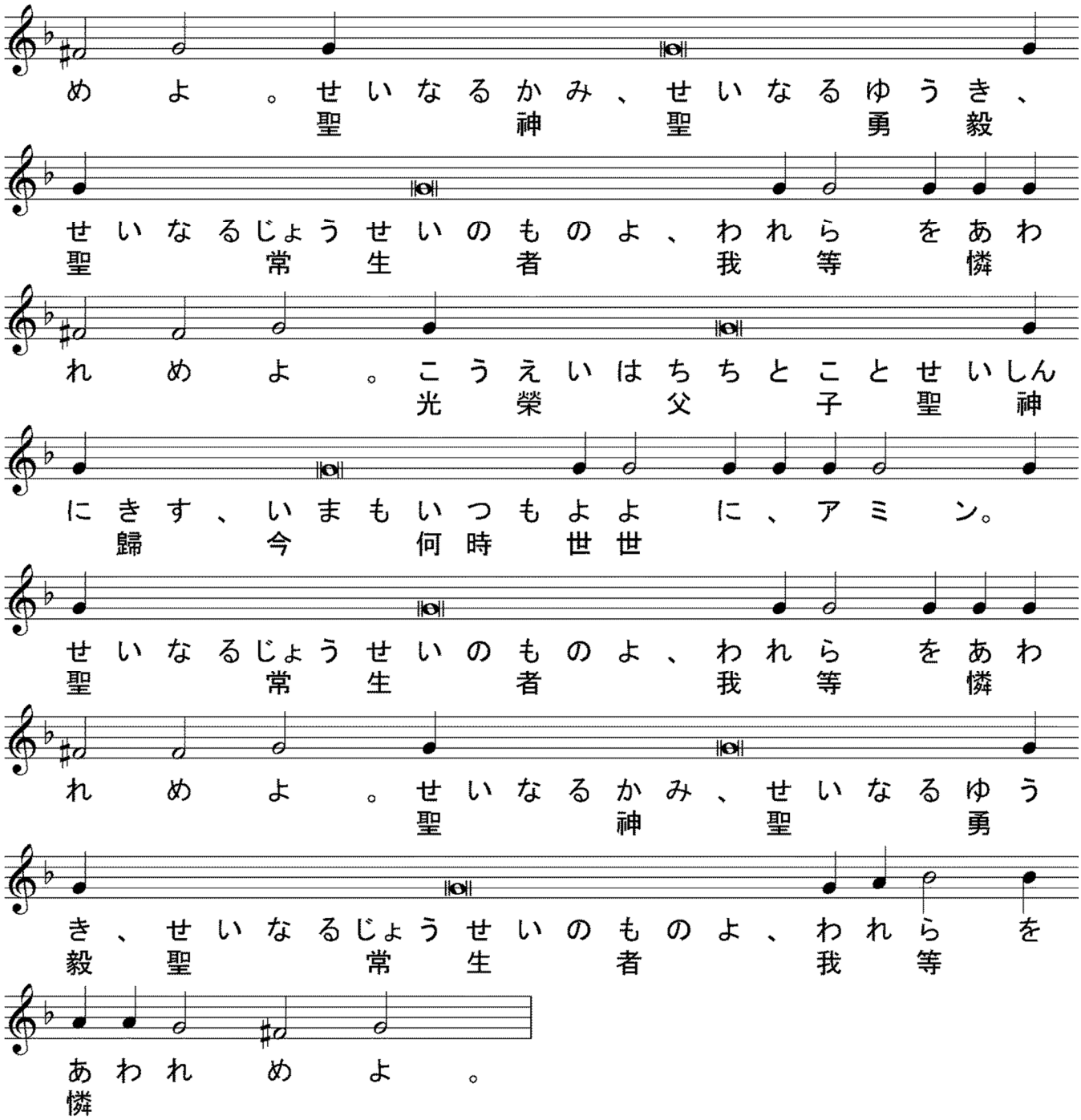
司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭） **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】





司祭）（ 默誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

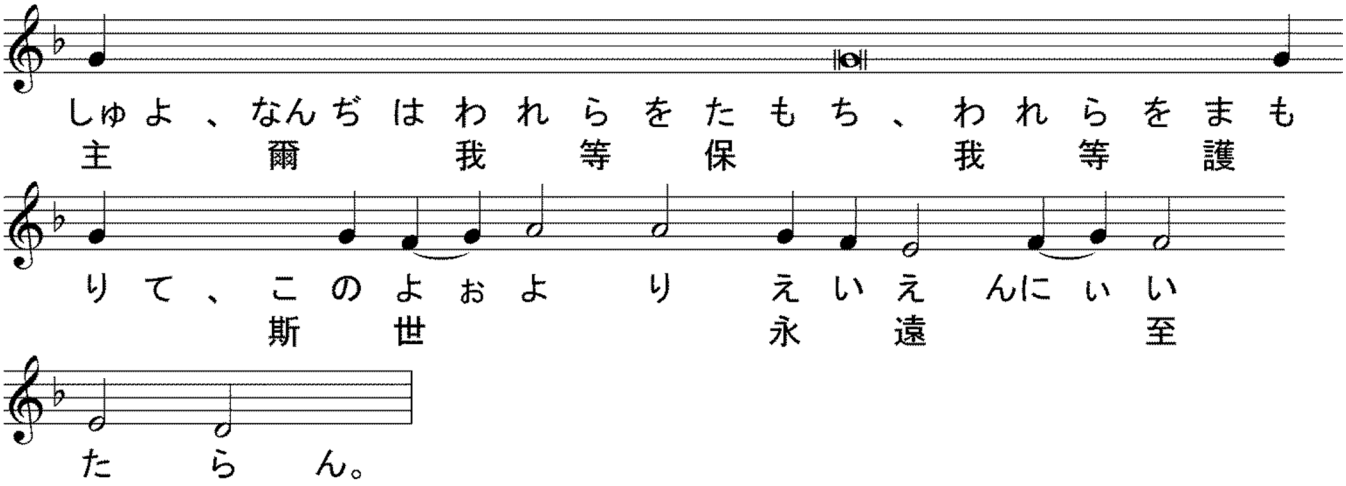
【 提綱 主日第５調 】

司祭） 愼みて聽くべし、衆人に平安、

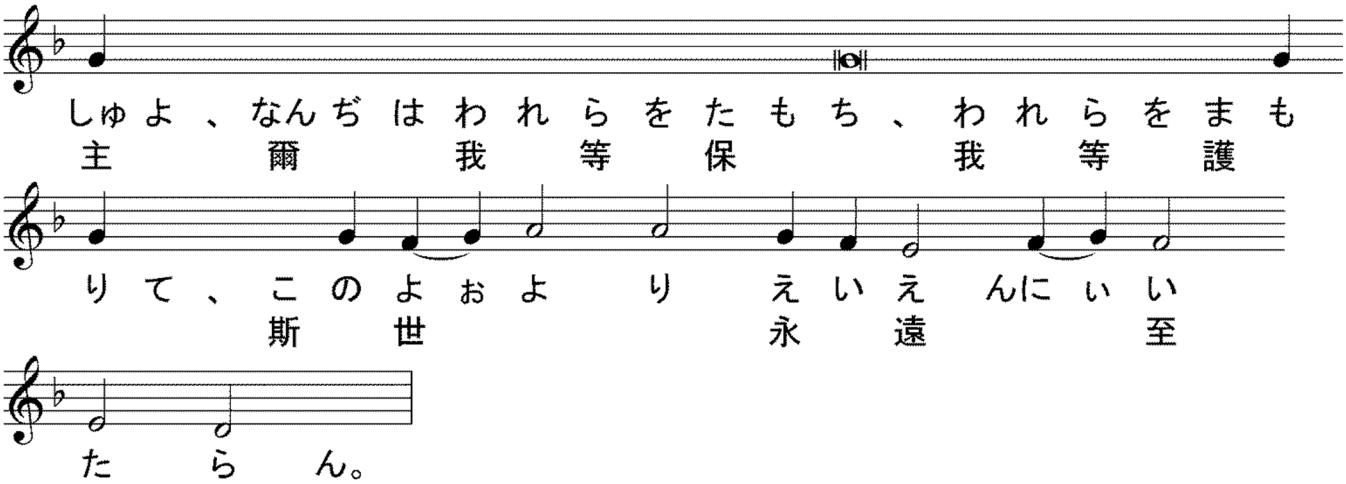
誦經） 爾の神にも、

司祭） 睿智、

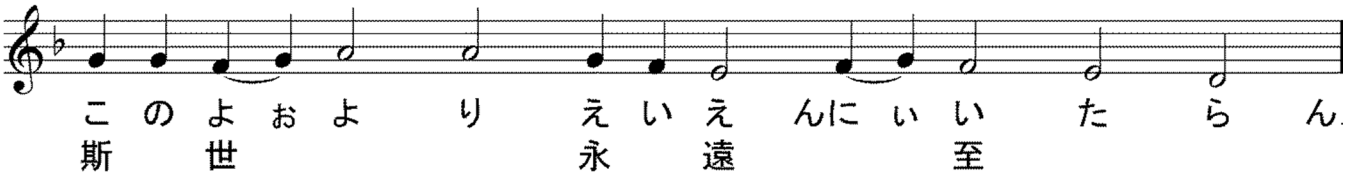
誦經） プロキメン、主よ、爾は我等を保ち、我等を護りて、斯の世より永遠に至らん、



誦經）主よ、我を救い給え、蓋 義人は絶えたり、



誦經）主よ、爾は我等を保ち、我等を護りて、



【 使徒經 296端 ティモフェイ後書3章10〜15節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがティモフェイに達する後書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）子ティモフェイよ、爾は我が教訓、品行、意志、信仰、寛容、仁愛、忍耐、我が

アンティオキヤ、イコニヤ、リストラに在りて遇いし所の窘逐、及び苦難に於て、我に從

えり、此の窘逐は我之を忍び、主は我を悉く其中より救えり。凡そ敬虔を以て、

ハリストス イイススに在りて生を度らんと欲する者は、皆窘逐せられん。惡しき人、及び人を欺く者は、益惡に進みて、人を惑わし、自も惑わされん。然れども爾は學びし所の、及び爾に託せられし所に居れ、爾誰より學びしかを知ればなり。且爾は幼より聖書を知る、即善く爾に、ハリストス イイススに於ける信に由りて、救を得しむる智慧を與うる者なり。

＊＊

（比較用　口語訳）あなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいっさいのことから、救い出して下さったのである。いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。

＊＊

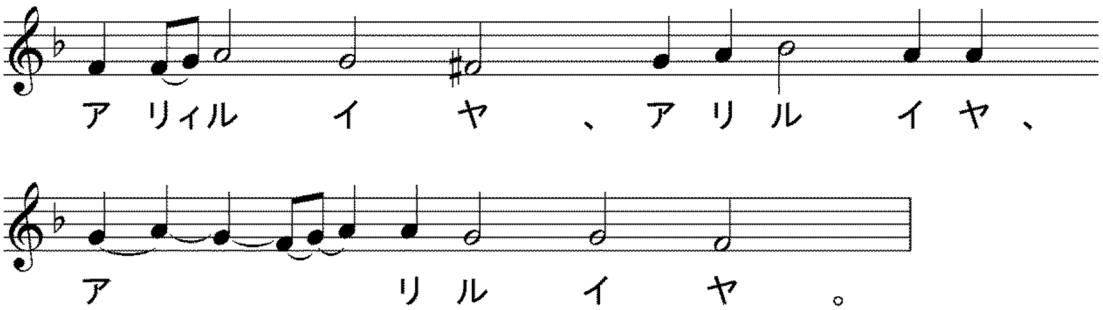
【　アリルイヤ　主日第５調　】

司祭）爾に平安、

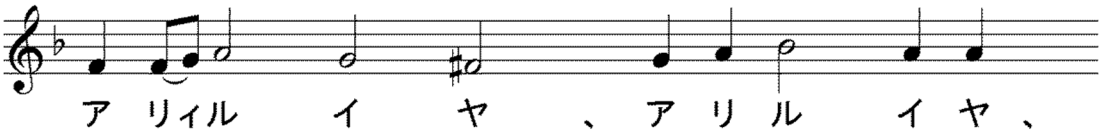
誦經）爾の神にも、

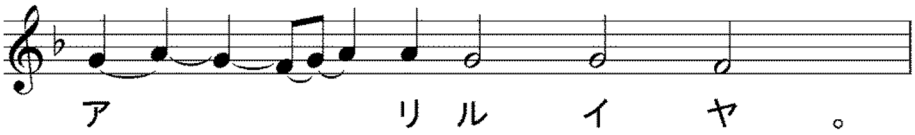
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、

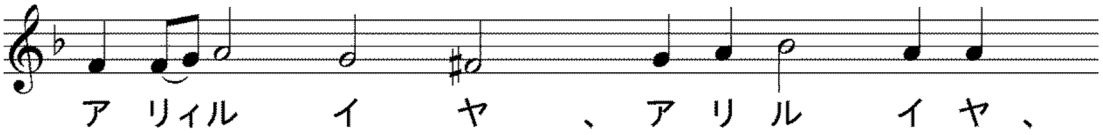


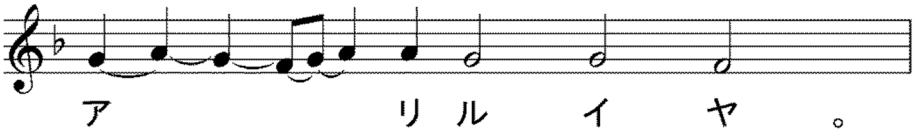
誦經）主よ、我永く爾の慈憐を歌い、我が口を以て世世に爾の眞實を傅えん、





誦經) 蓋(けだし) 我言(われい)う、慈慈(じれん)は永(なが)く建(た)てられたり、 爾(なんぢ)は爾(なんぢ)の眞實(しんじつ)を天(てん)に固(かた)めたり、

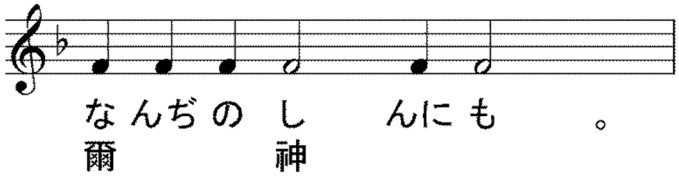




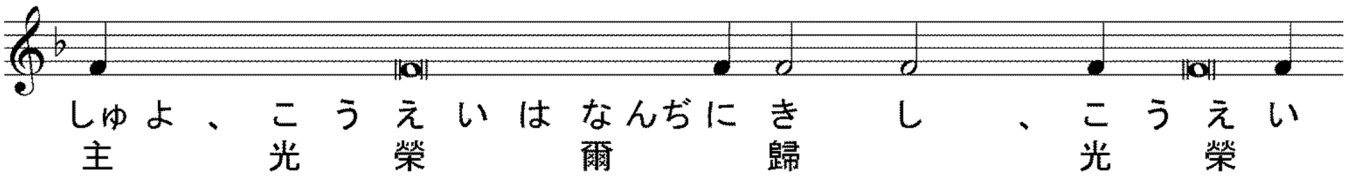
司祭) (黙誦: 人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(しねん)の目(め)を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うち)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ所(ところ)を思(おも)い且(か)つ行(おこな)いて、屬神(ぞくしん)の生活(せいかつ)を過(す)ぐるを致(いた)させ給(たま)え、蓋(けだし)ハリストス神(かみ)よ、爾(なんぢ)は我(わ)が靈(たましい)と體(からだ)との光照(こうしょう)なり、我等(われらなんぢ)爾(なんぢ)と爾(なんぢ)の無原(むげん)の父(ちち)と至聖至善(しせいしぜん)にして生命(いのち)を施(ほどこ)す爾(なんぢ)の神(しん)とに光榮(こうえい)を獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、アミン。)

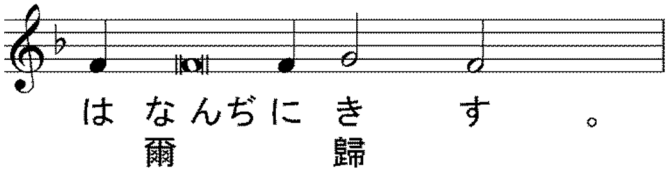
【 福音經(エヴァンゲリオン) ルカ福音書 89 端 18 章 10～14 節 】

司祭) 睿智(えいち)、肅(つつし)みて立(た)て聖福音經(せいふくいんけい)を聽(き)くべし、衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、



司祭) ルカ傳(でん)の聖福音經(せいふくいんけい)の讀(よみ)、





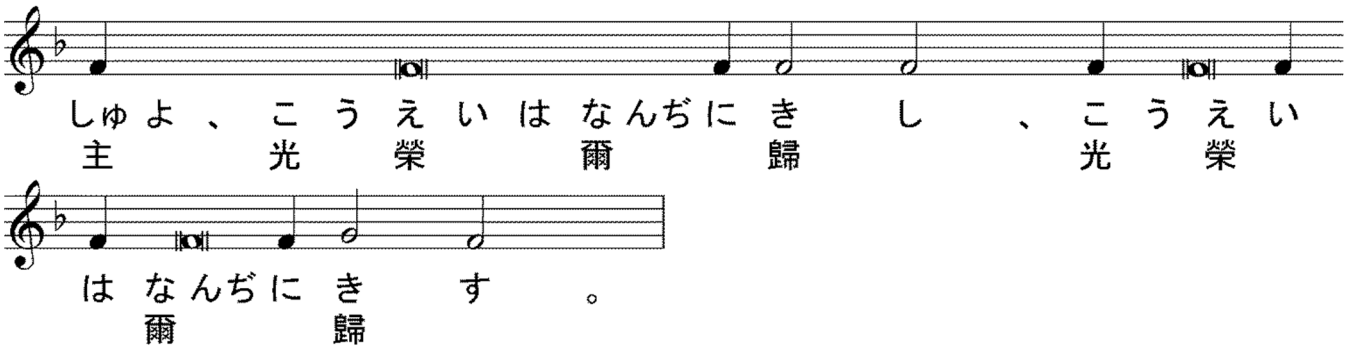
司祭) 謹(つつし)みて聽(き)くべし、主(しゅ)は左(さ)の譬(たとえ)を設(もう)けて曰(い)えり、二人(にんにん)祈禱(きとう)せん爲(ため)に殿(でん)に登(のぼ)れり、一(ひとり)は

ファリセイ、一は税吏なり。ファリセイ立ちて、己の衷に斯く禱れり、神よ、我爾に感謝す我他人の殘酷、不義、姦淫なる如く、或は此の税吏の如くならざるを以てなり。我一七日に、二次齋し、凡そ得る所の十分の一を獻ぐと。税吏は遠く立ちて、敢て目を擧げて天を仰がず、乃膺を拊ちて曰えり、神よ、我罪人を憐めと。我爾等に語ぐ、此の人は彼の人よりは義とせられて、家に歸れり。蓋凡そ自ら高くする者は卑くせられ、自ら卑くする者は高くせられん。

＊＊

（比較用　口語訳）「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

＊＊



※　聖体礼儀③（金ロイォアン）へ